

このたびの東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

# 関西経済レポート

関西の各種指標をみると、円高や海外経済減速の影響が拡大している。

生産は、足下は弱い動きになっている。消費は、持ち直しつつあるものの、マインドの低下が懸念される。雇用は、緩やかな改善傾向にあるが海外経済減速の影響が現れつつある。

先行きについては、電力供給への不安、海外経済の動向や円高の影響等の拡大が懸念材料である。



2012年2月20日

関経連経済調査部

※本レポート中の「近畿」「関西」の範囲は滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県。

ただし鉱工業生産、大口電力需要、大型小売店販売額、コンビニエンスストア販売額については、福井県を含む2府5県。

## ～目次～

政府・日銀の景況判断	1
生産	2
輸出入	3
個人消費	6
住宅投資	8
株価・為替	9
倒産	10
雇用	11

# ～政府・日銀の景況判断～

	近畿 近畿地区金融経済概況 日銀大阪支店	関東甲信越 地域経済報告 日銀	全国 金融経済月報 日銀	全国 月例経済報告 内閣府
2011年2月	↗ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつある。		↗ わが国の景気は、改善テンポの鈍化した状態から徐々に脱しつつある。	↗ 景気は、持ち直しに向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年3月	⇒ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつある。		⇒ わが国の景気は、改善テンポの鈍化した状態から脱しつつある。	↘ 景気は、持ち直しに転じているが、自律性は弱く、東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年4月	↘ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、足もとでは東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている。	↘ 震災の影響に伴う生産活動の大幅な低下等から厳しい状況にある	↘ わが国の経済をみると、震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にある。	↘ 景気は、持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年5月	⇒ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、このところ東日本大震災の影響が生産面などにみられはじめている。		⇒ わが国の経済をみると、震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力の強い状態にある。	⇒ 景気は、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2011年6月	⇒ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、昨秋からの足踏み状態を脱しつつあったが、このところ東日本大震災の影響が生産面などにみられている。		↗ わが国の経済をみると、震災の影響により、生産面を中心に下押し圧力が続いているが、持ち直しの動きもみられている。	↗ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ上向きの動きがみられる。
2011年7月	⇒ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるが、東日本大震災の影響が生産面などにみられている。	↗ 厳しい状況が続いているが、供給面の制約が和らぎ、家計や企業のマインドも改善しつつあるも、地域間、業種間のばらつきを伴いつつも、持ち直しの動きがみられている	↗ わが国の経済をみると、震災による供給面の制約が和らぐ中で、持ち直している。	⇒ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ上向きの動きがみられる。
2011年8月	↗ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、震災の影響も薄れてきている。		⇒ わが国の経済をみると、震災による供給面の制約が和らぐ中で、着実に持ち直してきている。	↗ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、持ち直している。
2011年9月	⇒ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあり、震災の影響も薄れてきている。		⇒ わが国の経済をみると、震災による供給面の制約がほぼ解消する中で、着実に持ち直してきている。	⇒ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるものの、持ち直している
2011年10月	⇒ 近畿地域の景気は、緩やかな回復基調にあるが、海外経済減速などの影響が一部にみられ始めている。	↗ 地域間、業種間のばらつきを伴いつつも、着実に持ち直してきている。	⇒ わが国の経済をみると、持ち直しの動きが続いている。	↘ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、引き続き持ち直しているものの、そのテンポは緩やかになっている。
2011年11月	↘ 近畿地域の景気は、足踏み状態となっている。		↘ わが国の経済をみると、持ち直しの動きが続いているものの、海外経済の減速の影響などから、そのペースは緩やかになっている。	⇒ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している。
2011年12月	⇒ 近畿地域の景気は、足踏み状態となっている。		↘ わが国の経済をみると、海外経済の減速や円高の影響などから、持ち直しの動きが一服している。	⇒ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している。
2012年1月	⇒ 近畿地域の景気は、足踏み状態となっている。		⇒ わが国の経済をみると、海外経済の減速や円高の影響などから、横ばい圏内の動きとなっている。	⇒ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している。

## ○日本銀行大阪支店 1月の景況判断（「近畿地域金融経済概況」）

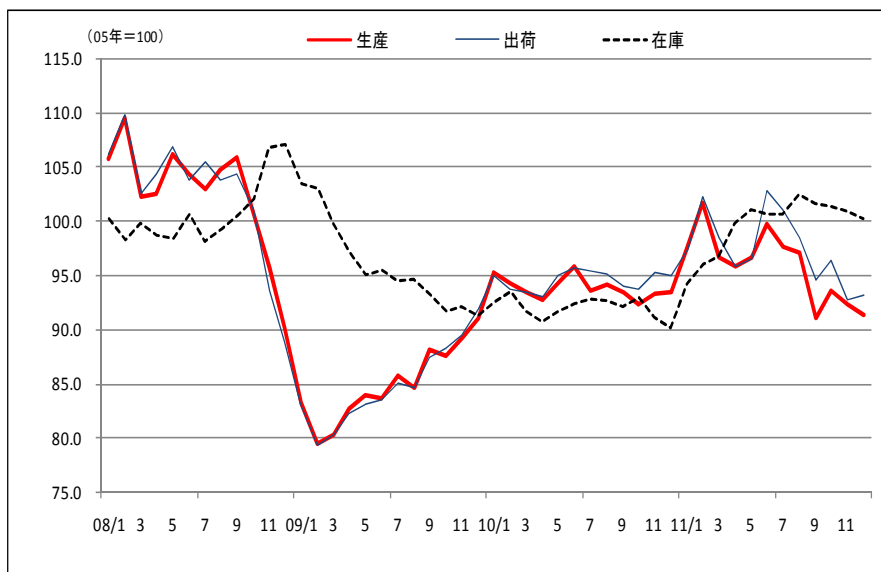
「近畿地域の景気は、足踏み状態となっている。」とした。（12月から継続）

- ・ 輸出・生産・・・海外経済減速などの影響から弱含み。
- ・ 設備投資・・・企業収益が頭打ちとなる中、やや弱めの動きがみられる。
- ・ 個人消費・・・全体として緩やかに持ち直している。

先行きは、海外経済減速や円高の影響に加え、電力の供給制約の影響にも注視が必要。

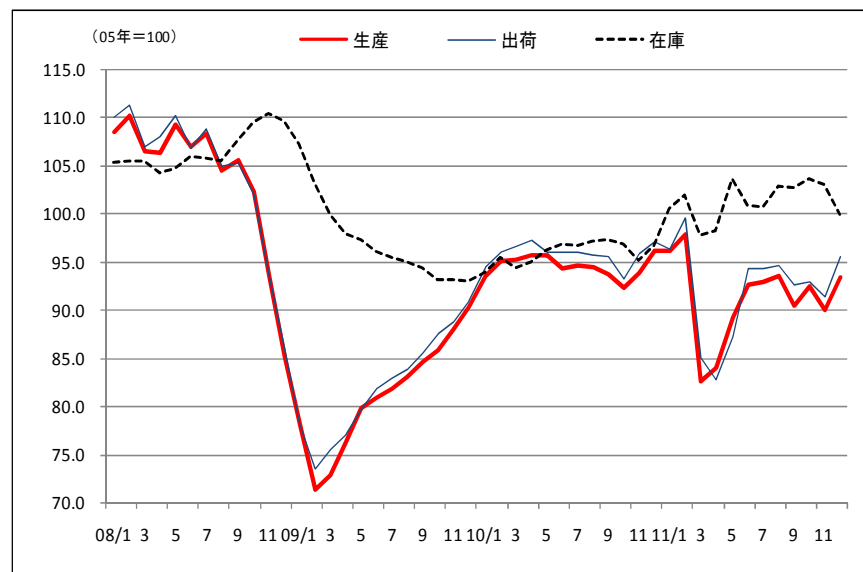
# ～生産～

鉱工業指数の推移（近畿 2011年12月速報まで）



(出所) 近畿経済産業局

鉱工業指数の推移（全国 2011年12月確報まで）



(出所) 経済産業省

業種別鉱工業  
生産指数  
(前月比、%)

\*網掛は、生産が  
前月比プラスの業種

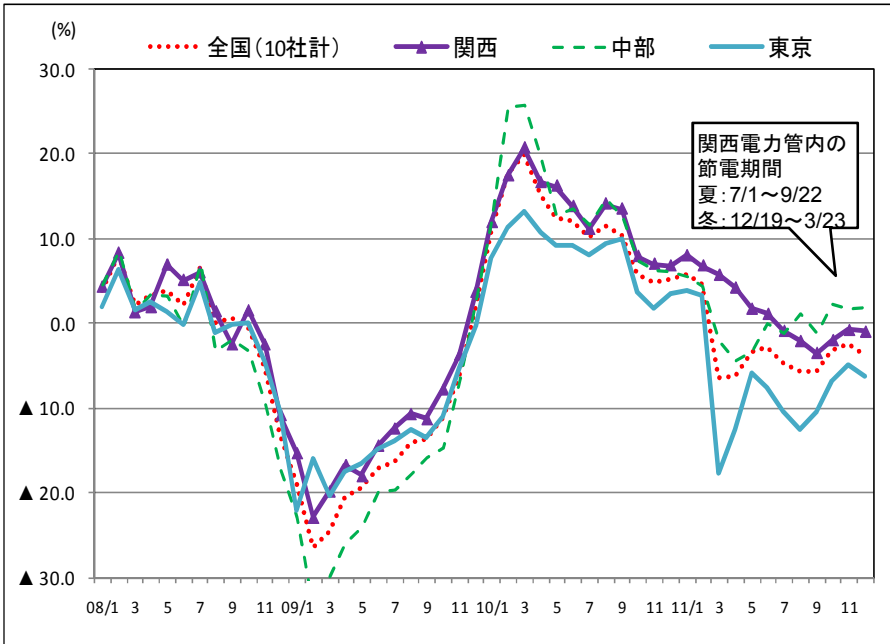
	全体	鉄鋼	金属製品	一般機械	電気機械	情報通信 機械	電子部品 デバイス	輸送機械	化学	食料品 たばこ
近畿10月	2.7	▲ 1.9	5.3	9.5	▲ 2.0	▲ 9.0	▲ 9.9	8.3	3.3	2.2
近畿11月	▲ 1.4	2.2	5.5	▲ 8.8	0.3	▲ 19.2	3.7	▲ 4.6	▲ 1.1	▲ 0.7
近畿12月	▲ 1.0	1.9	▲ 10.2	▲ 0.9	▲ 4.1	19.2	▲ 3.8	9.7	▲ 4.5	0.0
全国12月	3.8	▲ 0.8	▲ 0.1	0.9	▲ 1.1	34.8	7.0	13.2	▲ 2.8	▲ 2.9

・近畿の12月（速報）の鉱工業生産指数は、91.4。前月比▲1.0%と2カ月連続の低下。総じて見れば、生産は弱含み。出荷は前月比+0.3%の93.1と、2カ月ぶりの上昇。在庫は、前月比▲0.7%の100.2と、4カ月連続の低下。業種別にみると、金属製品工業、化学工業(除.医薬品)、電気機械工業などが低下に寄与。品目別にみると、セパレート型エアコン、ボイラ部品、ガス温風暖房機等の生産が低下。

・全国の12月（確報）の鉱工業生産指数は、93.4。前月比+3.8%と2カ月ぶりの上昇。総じて見れば、生産は横ばい傾向。出荷は、前月比+4.6%の95.6と2カ月ぶりの上昇。在庫は、前月比▲2.9%の100.0と2カ月連続の低下。業種別では、輸送機械工業、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業が上昇に寄与。製造工業生産予測調査によると、1月、2月とも上昇を予測している。

# ～生産～

産業用大口電力実績（対前年伸び率・2011年12月まで）

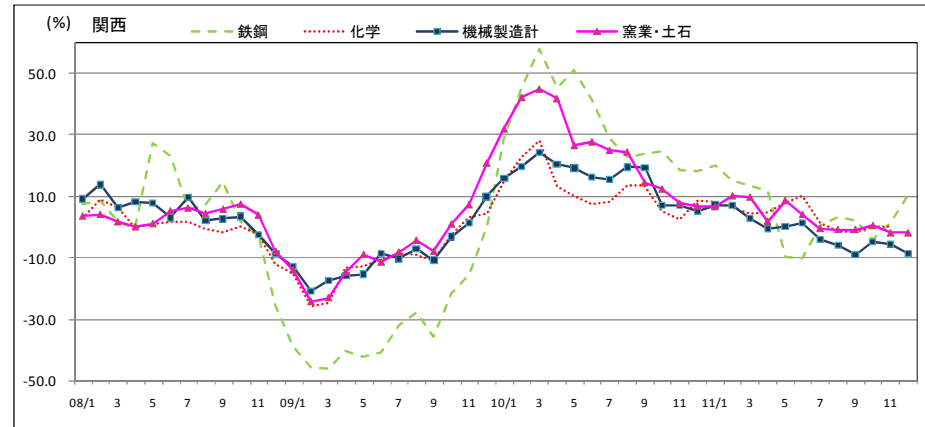


(出所) 電気事業連合会

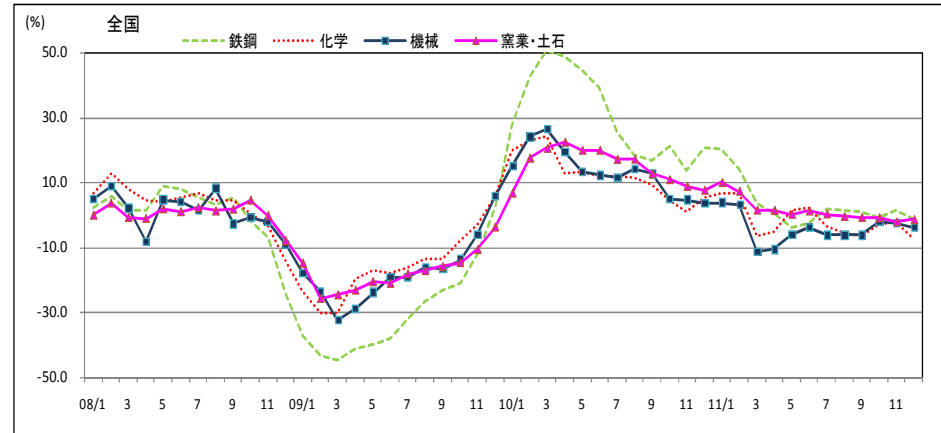
・12月の関西の大口電力実績は、前年同月比▲1.0%と、6カ月連続で前年同月比マイナスとなった。夏の節電期間終了後、マイナス幅は徐々に縮小していたが、12月は前月より若干拡大。全国は同▲3.8%と、10カ月連続のマイナスとなった。

・業種別(関西)では、鉄鋼、非鉄金属の2業種で前年比プラスとなった。

大口電力業種別実績（対前年伸び率 2011年12月まで）



(出所) 関西電力



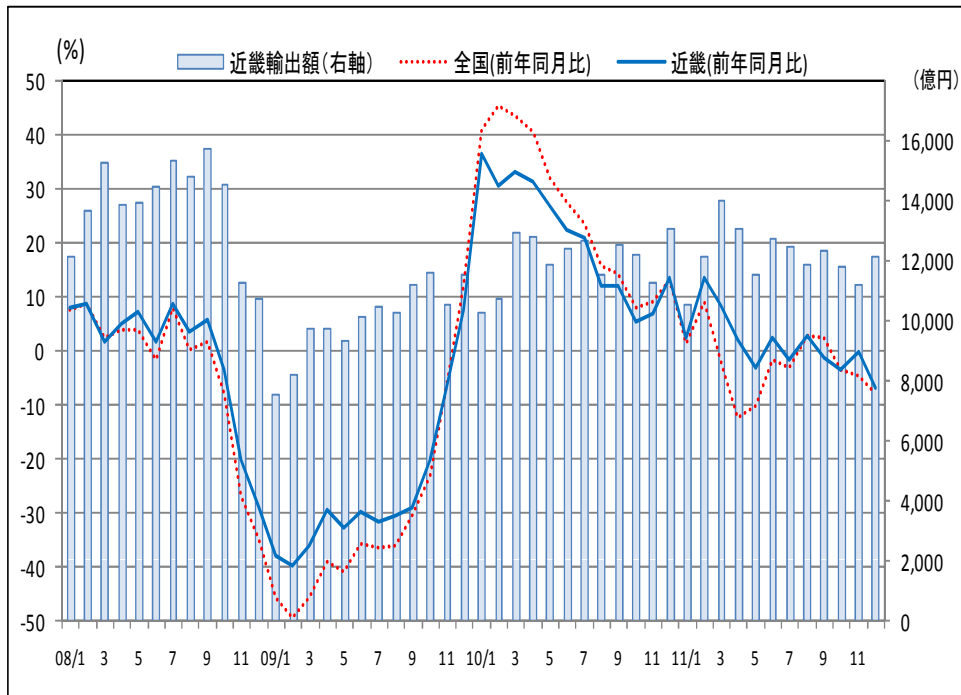
(出所) 電気事業連合会

大口電力 業種別実績（関西 前年同月比伸び率）

関西	食料品	繊維	パルプ・紙	化学	石油・石炭	ゴム製品	窯業・土石	鉄鋼	非鉄金属	機械製造計
10月	▲ 0.8	0.9	0.4	0.1	2.4	▲ 1.7	0.6	▲ 4.0	12.6	▲ 4.9
11月	2.3	▲ 0.9	0.5	0.0	▲ 7.1	▲ 0.5	▲ 1.8	1.5	12.1	▲ 5.5
12月	▲ 0.8	▲ 12.9	▲ 6.9	▲ 4.5	▲ 5.6	▲ 2.6	▲ 1.8	10.5	16.2	▲ 8.5

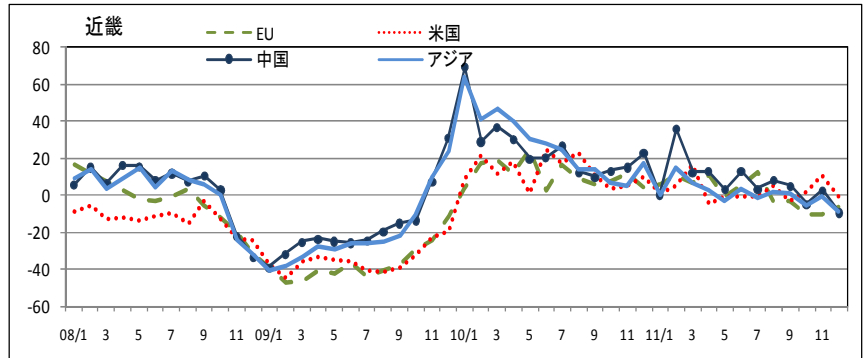
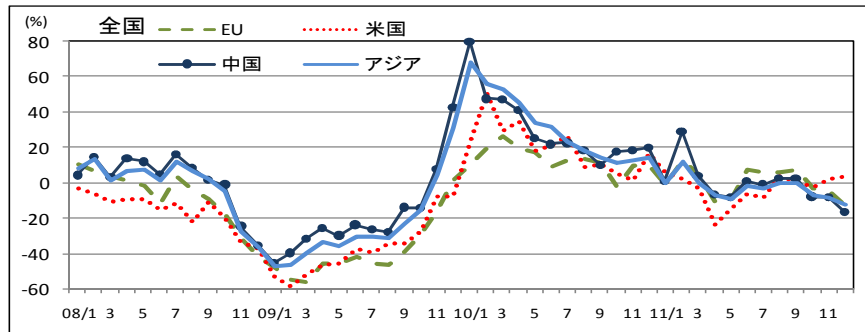
# ～輸出～

## 輸出金額・前年同月比増減率推移 (2011年12月まで)



出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿)

## 地域別輸出金額・前年同月比推移

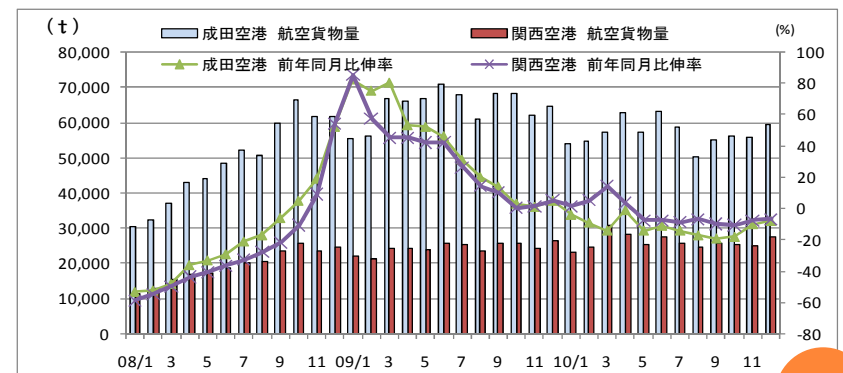


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿)

### ○近畿の月次の輸出動向 (2011年12月まで)

- ・ 12月の近畿の輸出額は1兆2,141億円、前年同月比▲7.0%。  
4カ月連続の前年同月比マイナス。
- ・ 地域別では、アジア向けが前年同月比▲8.9%と3カ月連続のマイナス。  
うち中国向けは同▲9.5%と2カ月ぶりのマイナス。  
EU向けは同▲6.0%と5カ月連続のマイナス、米国向けは同▲0.7%と3カ月ぶりのマイナス。
- ・ デジタルカメラ等の映像機器、鉄鋼、半導体等電子部品等が減少。
- ・ 全国の12月の輸出額は5兆6,237億円、前年同月比▲8.0%と、  
3カ月連続のマイナス。

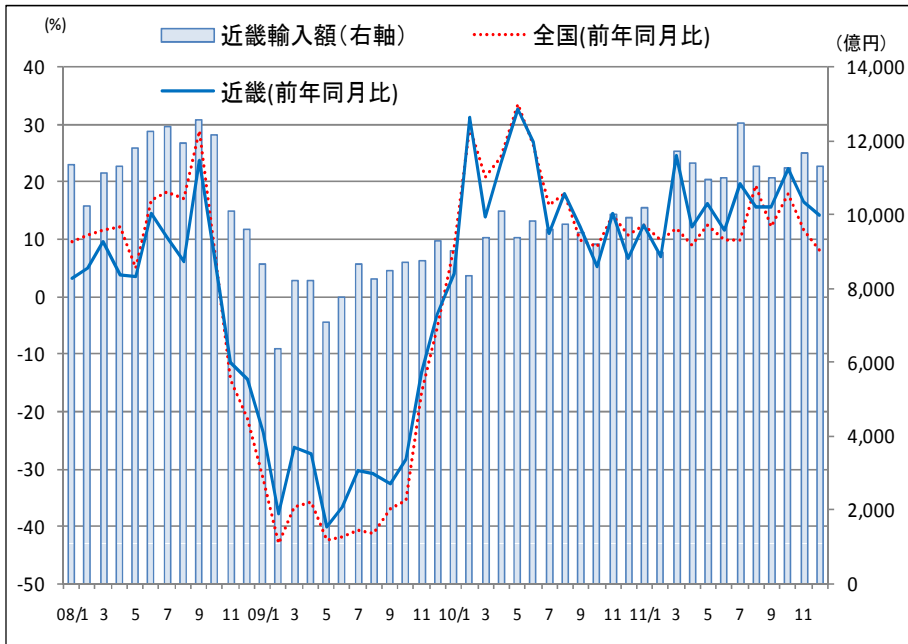
## 関西空港・成田空港貨物取扱量(輸出)



出所：関西国際空港(株)、成田国際空港(株)

# ～輸入～

## 輸入金額・前年同月比増減率推移 (2011年12月まで)

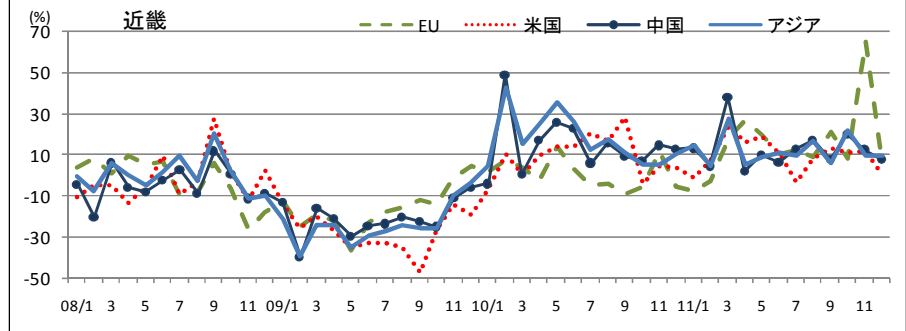
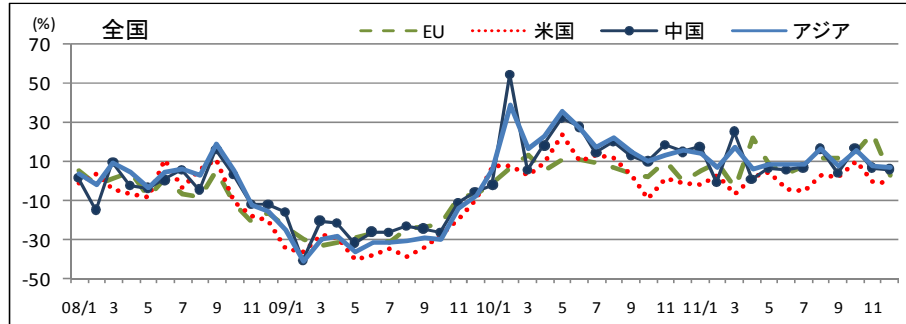


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

### ○近畿の月次の輸入動向 (2011年12月まで)

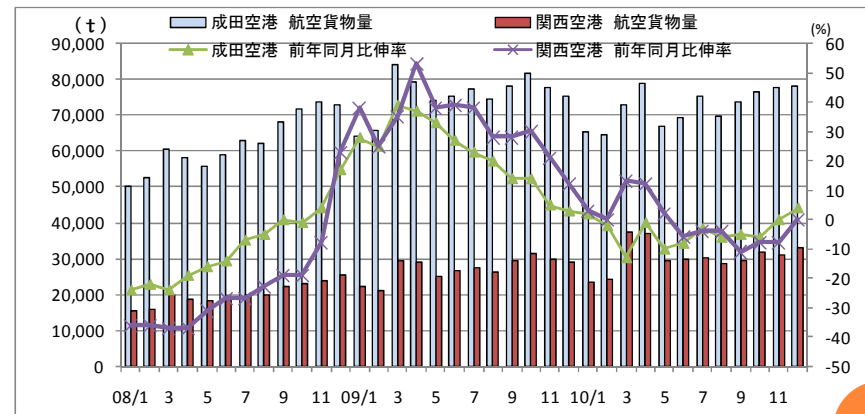
- ・ 12月の近畿の輸入額は1兆1,300億円、前年同月比+14.1%と24カ月連続のプラス。
- ・ 原油や天然ガス等燃料の輸入が引き続き大幅に増加しており、12月の輸入額としては過去最高額となった。
- ・ 地域別では、対アジアが前年同月比+9.8%と24カ月連続のプラス。アジアのうち対中国が同+8.3%。対米国が同+0.7%と5カ月連続のプラス。対EUは同+5.1%と10カ月連続のプラス。
- ・ 全国の輸入額は5兆8,288億円、前年同月比+8.1%と24カ月連続のプラス。

## 地域別輸入金額・増減前年同月比推移



出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿)

## 関西空港・成田空港貨物取扱量(輸入)

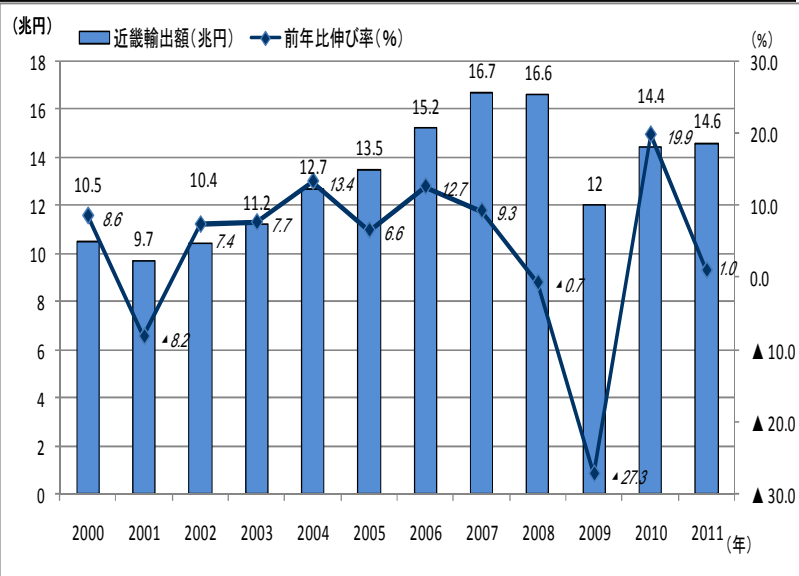


出所：関西国際空港(株)、成田国際空港(株)



# ～2011年 関西の貿易動向～

近畿 輸出額と前年比伸び率 (2000～2011年)



- ・2011年の近畿の輸出額は14兆5,660億円。前年比+1.0%、2年連続の前年比プラス。
- ・中国向け科学光学機器(液晶パネル等)等の輸出が増加した。  
対中国輸出額は3兆5,417億円、過去最高額を更新した。
- ・2011年の全国の輸出額は65兆5,547億円、前年比▲2.7%。東日本大震災の影響等により減少。

(出所) 財務省貿易統計、大阪税関

近畿圏は大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山の2府4県  
 首都圏は東京、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、埼玉、山梨の1都7県  
 中部圏は愛知、岐阜、三重、長野、静岡の5県  
 九州圏は福岡、山口、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の9県  
 東北圏は青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島、新潟の7県

地域別輸出額

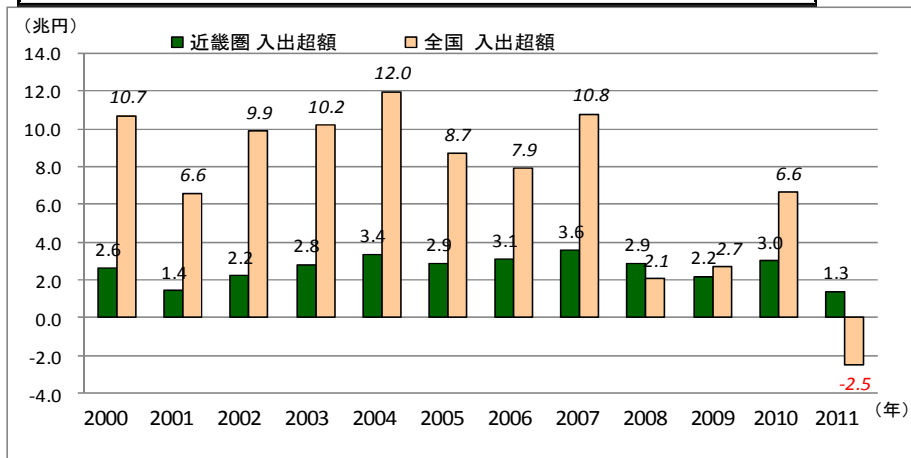
2011年 (単位:百万円、%)

地域	輸出額	前年比伸び率	全国比
近畿圏	14,565,708	+1.0	22.2
首都圏	24,619,257	▲4.4	37.6
中部圏	14,004,929	▲3.2	21.4
九州圏	6,919,651	▲2.9	10.6
東北圏	554,269	▲31.2	0.8

・輸出額を地域別に見ると、震災の影響が比較的小さく、アジア向け輸出の比率が高いことから、2010年比でプラスなのは近畿圏のみである。

・近畿圏の全国比も上昇し、4月には25.6%と過去最高を記録した。震災直後は、輸出入において関西が関東の代替機能を果たした。

貿易収支 (近畿、全国 2000～2011年)



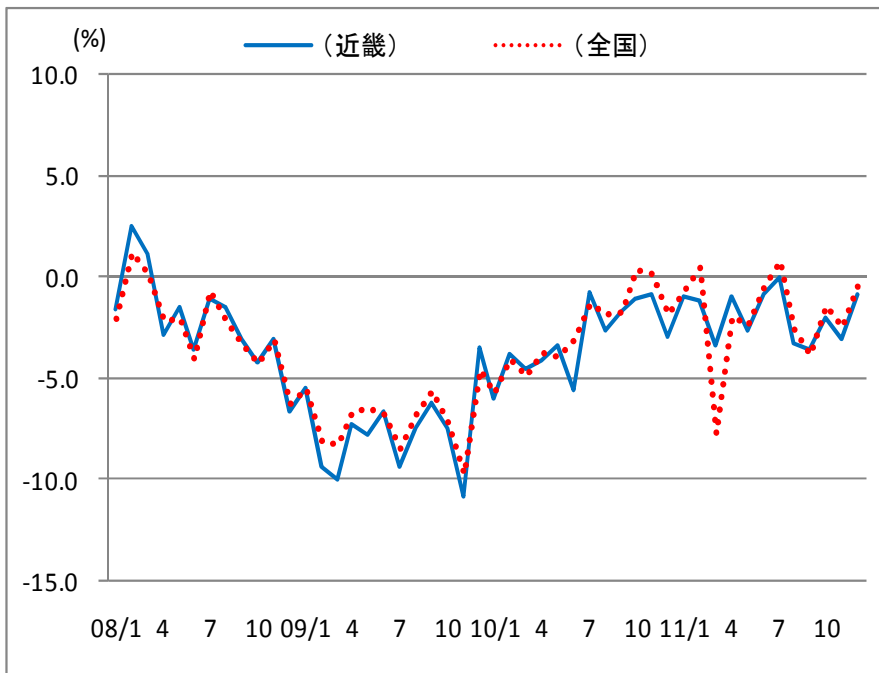
・震災以降、原子力発電所の停止に伴う燃料輸入の増加等により、全国は1980年以来となる貿易赤字となった。

・近畿は、データ取得可能な1979年以降33年連続の貿易黒字を維持。ただし黒字幅は縮小しており、原子力発電所が再稼働しなければ、2012年はさらに燃料輸入が増加し、近畿も貿易赤字に陥ることが懸念される。



## ～個人消費～

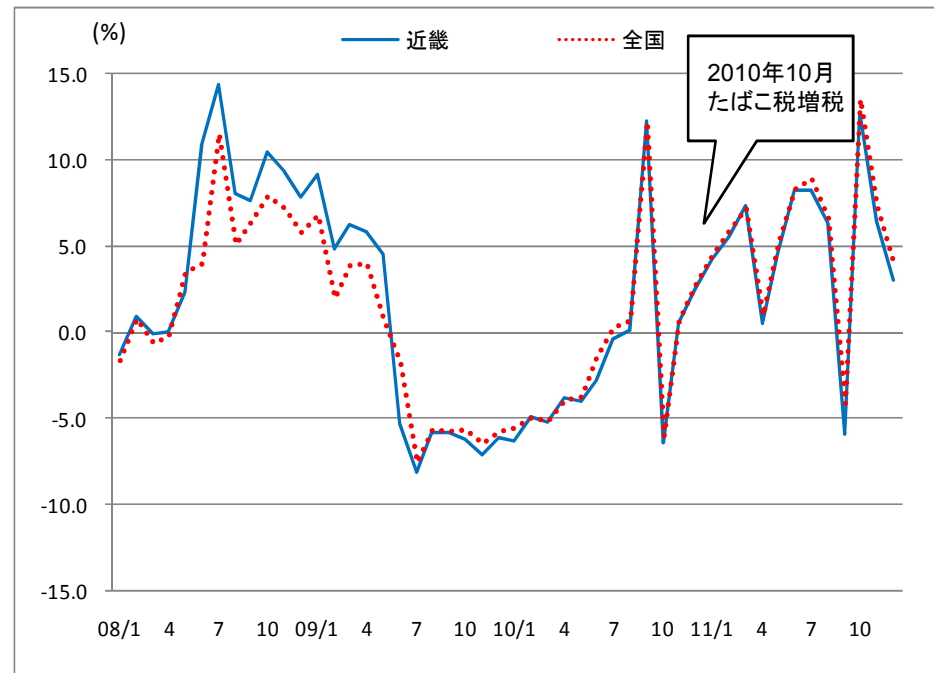
大型小売店販売額（前年同月比・2011年12月まで）



(出所) 近畿経済産業局

- ・ 近畿の12月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比▲0.9%と4カ月連続のマイナス。マイナス幅は前月(▲3.1%)より縮小。
- ・ スーパーは同▲2.9%と37カ月連続のマイナス。
- ・ 百貨店は同+1.8%と、2カ月ぶりのプラス。
- ・ 引き続き増床・リニューアル効果がみられ、気温が下がり防寒衣料等が好調であった。
- ・ 全国の12月の大型小売店販売額(既存店ベース)は同▲0.4%、5カ月連続のマイナス。

コンビニエンスストア販売額（前年同月比・2011年12月まで）



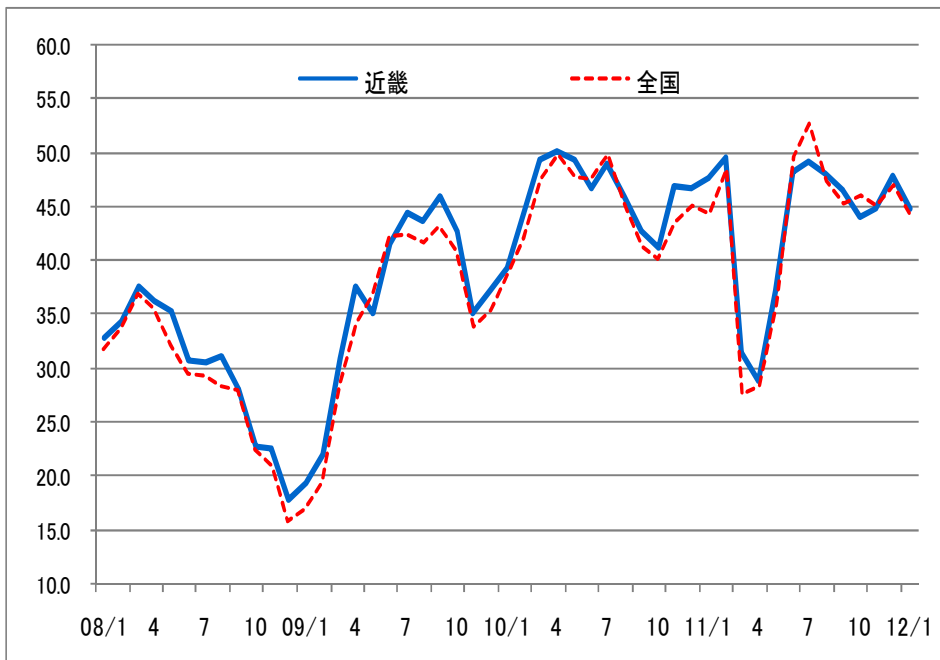
(出所) 近畿経済産業局

- ・ 近畿の12月のコンビニエンスストア販売額(既存店ベース)は、前年同月比+3.0%と3カ月連続のプラス。引き続き堅調であるものの、前月(+6.5%)からプラス幅は縮小。
- ・ 全国も同+4.0%と、3カ月連続のプラス。
- ・ 来店客数・客単価とも前年同月比プラス。月の後半を中心に気温が低く、中華まん、おでん等のカウンター商材が好調であった。( \* 全国)

\* (社) 日本フランチャイズチェーン協会調べ

## ～個人消費～

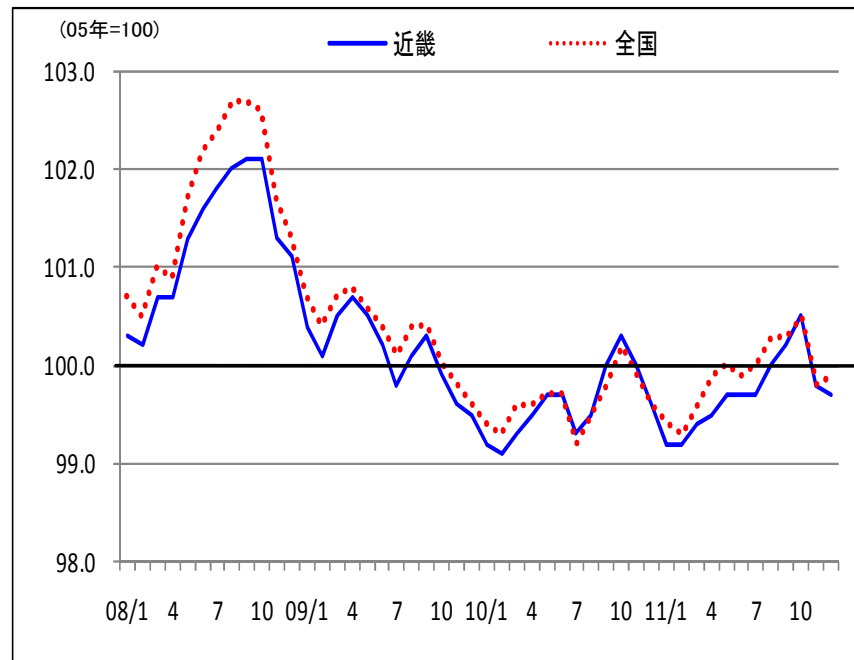
景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性 2012年1月まで)



(出所) 内閣府

- ・ 1月の近畿の現状判断DIは前月比▲3.2ポイントの44.8と、2カ月ぶりに低下。正月商戦等は好調であったものの、その反動や天候不順に伴う売上げ減少や、テレビの駆け込み需要の反動が引き続きみられたこと等から低下した。
- ・ 全国の1月の現状判断DIは前月比▲2.9ポイントの44.1と、2カ月ぶりに低下した。
- ・ 近畿の1月の先行き判断DIは前月比+2.9ポイントの47.3と、4カ月ぶりの上昇。先行き不透明感が続いている一方で、省エネ家電の販売増や外国人観光客の回復等の声があった。
- ・ 全国の先行き判断DIは同+2.7ポイントの47.1。

消費者物価指数(総合指数・2011年12月まで)

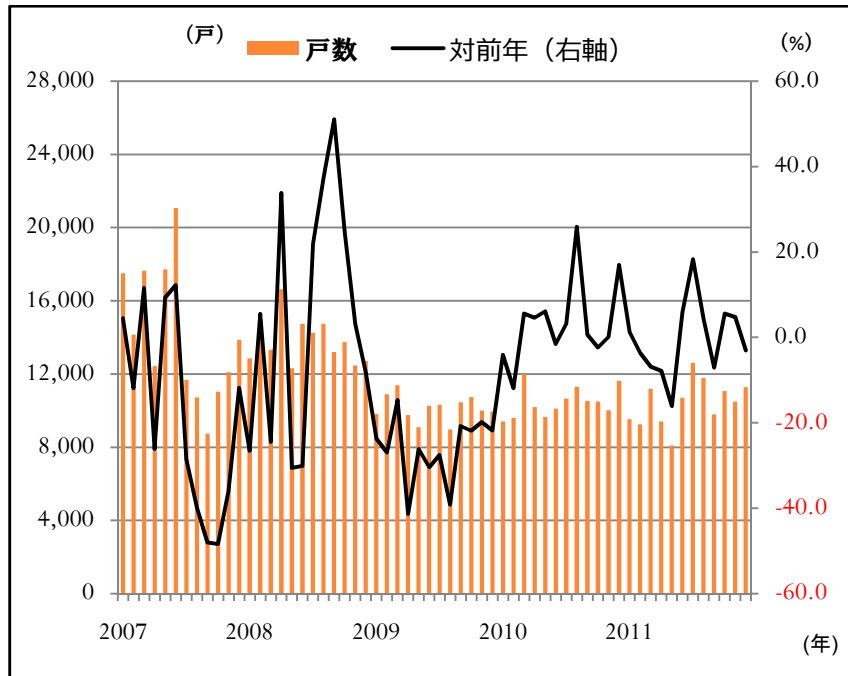


(出所) 総務省

- ・ 近畿の12月の消費者物価指数(総合指数、2005年基準)は99.7。前月比▲0.1%、2カ月連続の低下。前年同月比では+0.1%の上昇。エネルギー等が上昇、教養・娯楽等が低下。
- ・ 近畿の食料(酒を除く)及びエネルギーを除く総合指数は97.5で、前月比▲0.1%、前年同月比▲0.4%。前月比では2カ月連続の低下。
- ・ 全国の12月の消費者物価指数(総合指数、2005年基準)は99.9。前月比+0.1%、前年同月比+0.3%。

## ～住宅投資～

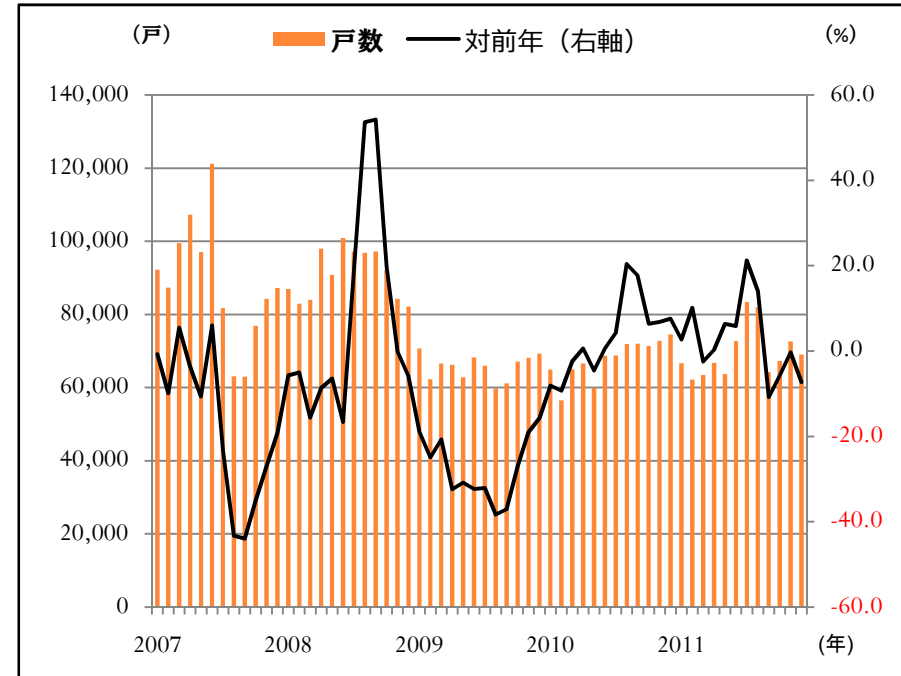
新規住宅着工戸数（近畿・2011年12月まで）



(出所) 国土交通省

- ・ 12月の近畿の新設住宅着工件数は11,281戸、前年同月比▲3.0%。3カ月ぶりのマイナス。
- ・ 利用関係別の対前年同月比を見ると、  
持家が▲10.3%と4カ月連続のマイナス。  
貸家が▲9.5%と2カ月連続のマイナス。  
分譲は+4.6%と7カ月連続のプラス。  
分譲のうち、マンションが+13.2%と4カ月連続のプラス。  
一戸建て住宅は▲4.2%と2カ月ぶりのマイナス。

新規住宅着工戸数（全国・2011年12月まで）

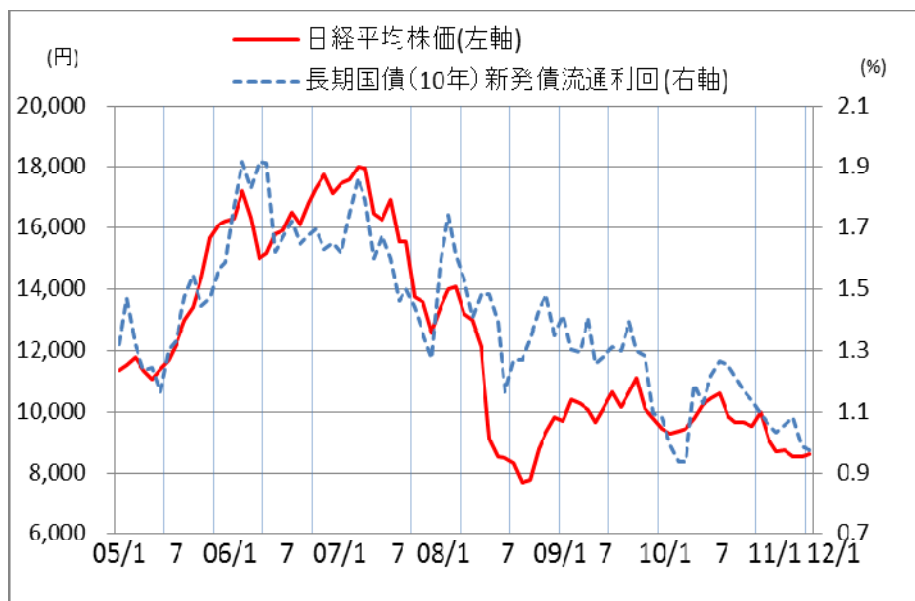


(出所) 国土交通省

- ・ 12月の全国の新設住宅着工件数は69,069戸、前年同月比▲7.3%と4カ月連続のマイナス。
- ・ 利用関係別に見ると  
持家が▲8.8%と4カ月連続のマイナス。  
貸家が▲9.0%と4カ月連続のマイナス。  
分譲は▲2.2%と3カ月ぶりのマイナス。  
分譲のうちマンションが▲5.6%と3カ月ぶりのマイナス。  
一戸建て住宅が+0.8%と2カ月連続のプラス。

## ～株式・長期金利～

日経平均株価（期中平均）・長期国債新発債流通利回（月末）

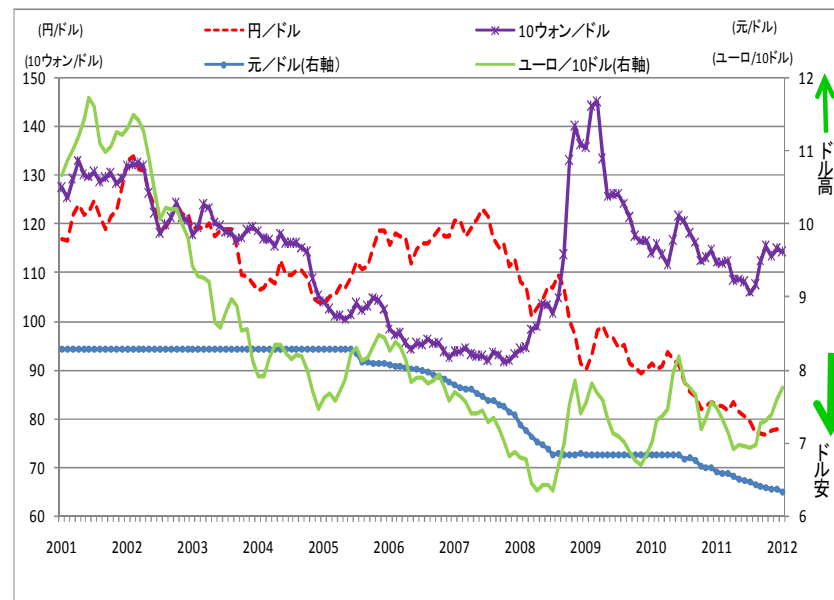


(出所) 日本経済新聞社

- 1月の日経平均株価(期中平均)は、前月比110円72銭高の8616.71円。米国経済の回復等により上昇した。2月20日現在、為替相場の安定等から、株価は更に上昇し6カ月半ぶりに9,500円前後で推移している。
- 先行きは、超円高の継続、電力不足、中東情勢、海外経済の減速懸念など、引き続き不安材料が多い。
- 1月末の長期国債(10年)新発債流通利回りは、年率0.974%、12月末から0.013%低下。日本の足下の利回りは低水準にあるが、復興財源捻出のための復興国債の募集が開始されるなど、今後も国債が増発されるため中長期的に長期金利上昇のリスクは高い。

## ～為替相場～

為替相場の動き（期中平均値・2012年1月まで）



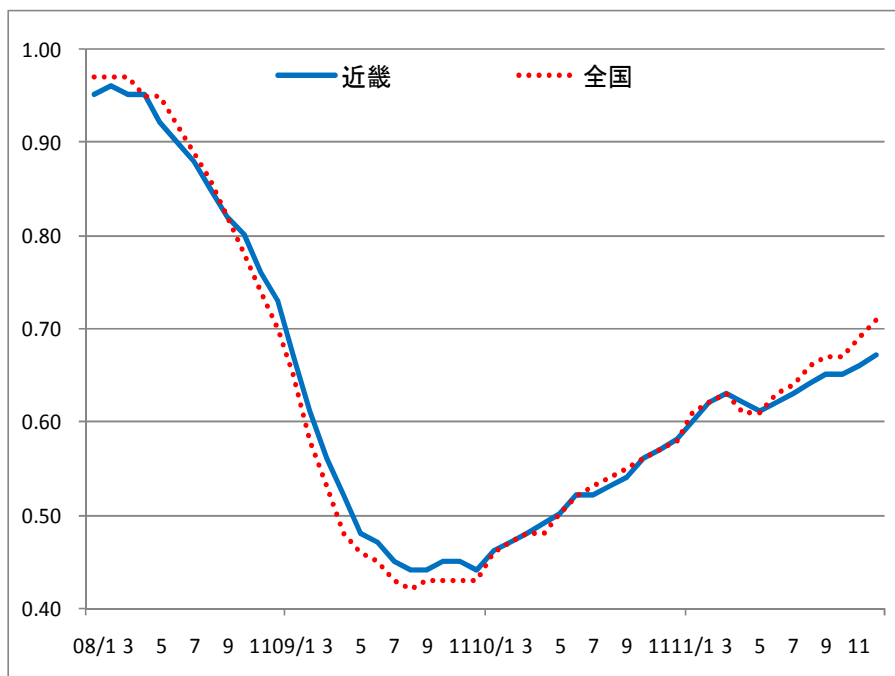
(出所) FRB

通貨	12月 (期中平均)	1月 (期中平均)	前月比
円/ドル	77.80	76.96	0.83 円の円高
ユーロ/ドル	0.76	0.78	0.02 ユーロのユーロ安
元/ドル	6.35	6.32	0.04 元の元高
ウォン/ドル	1148.13	1140.33	7.80 ウォンのウォン高

- 1月25日に日本の31年ぶりの貿易赤字への転落が発表され、一時1ドル78円27銭まで円安が進んだ。2月に入り、米国経済の回復、欧州債務問題解決の進展期待から、対ドル、対ユーロとも円高が一服しつつある。
- 依然として超円高水準にあり、今後も、欧州の信用不安の拡大、米国の低金利政策の継続が改めて公表されるなど、引き続き円高懸念が強い。

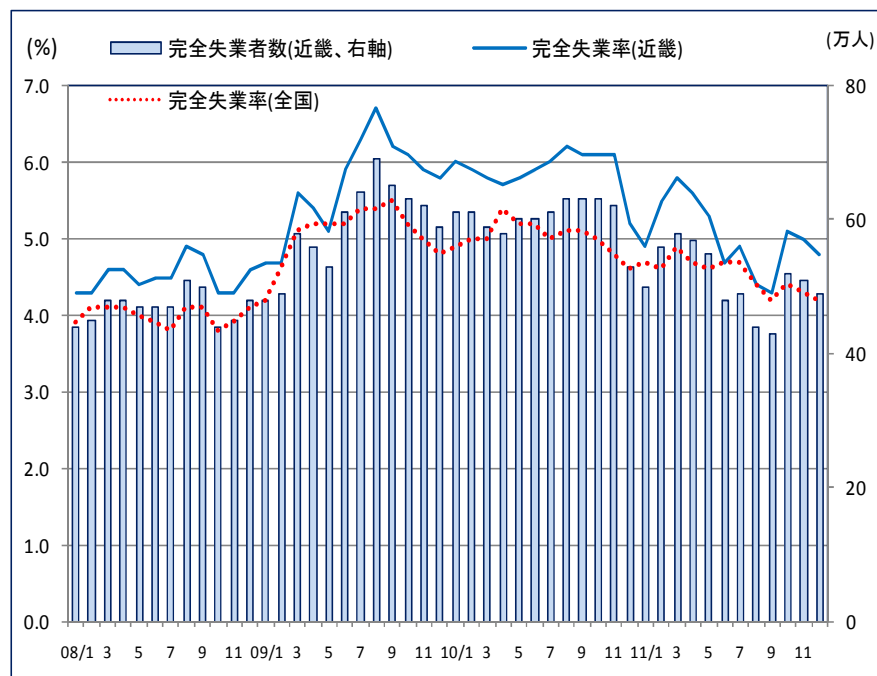
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値・2011年12月まで）



(出所) 厚生労働省

完全失業率の推移（原数値・2011年12月まで）



(出所) 総務省

地域別有効求人倍率（2011年12月：下段は前月比）

全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
0.71	0.54	0.70	0.68	0.74	0.85	0.86	0.67	0.86	0.82	0.60
0.02	0.02	0.03	0.00	0.01	0.03	0.02	0.01	0.02	▲0.01	0.01

・2011年12月の近畿の有効求人倍率は0.67倍、前月比+0.01ポイントと2カ月連続の改善。

- ・全国は0.71倍で、前月比+0.02ポイントの改善。
- ・地域別の前月比では、四国で低下、南関東で横ばい、その他の地域は改善。東北は8カ月連続の改善。

- ・12月の近畿の完全失業率（原数値）は4.8%。前月比▲0.2ポイントの改善。  
前年同月比でも▲0.4ポイントの改善。
- ・2カ月連続の改善であるが、海外経済減速・円高等の影響もあり、先行きは不透明。
- ・12月の全国の完全失業率（原数値）は4.2%、前月から▲0.1ポイントの改善。
- ・12月の全国の完全失業率（季節調整値）は4.6%、前月から+0.1ポイントの悪化。

※東日本大震災の影響により、全国の2011年3～8月分結果には岩手県、宮城県、福島県の結果は含まれていない。9月分から当該3県を含む結果となっているが、沿岸部を中心に、調査が再開されていない調査区もある。